

2009事業報告

市民ひゅーまんセミナー（9月）

4回にわたり各分野の専門の方々をお招きして、人権に関わる様々な課題について学習しました。

●1回目 9月2日（水）13：30～15：30

講演 「クマの棲む豊かな森を次世代へ」

講師 森山 まり子さん（日本熊森協会会長）

・戦後の植林によって動物たちと人間の棲み分けがなくなり、山の保水力もなくなり、山崩れなどの被害に繋がっていることを分かりやすく教示されました。

●2回目 9月17日（木）19：00～21：00

講演 「伝えるということ、知っておくということ」～カンボジアでの活動を通して～

講師 杉村 太郎さん（日本カトリック信徒宣教師会会員）

・カンボジアでゴミ集積所周辺に暮らす家族の生活向上支援に3年半ほど参加した経験から、その現状と取り組みを話されました。

●3回目 9月24日（木）13：30～15：30

講演 「被差別部落の歴史に学ぶ」～部落の起源とその後の変遷～

講師 寺木 伸明さん（桃山学院大学教授）

・部落史を学ぶことの意義から、被差別部落の起源、近世部落の人々の生業、近世部落の人々の役目などを資料や文献を用いて興味深く解説していただきました。

●4回目 9月29日（火）19：00～21：00

演奏とトーク 「弦は海を越えて～千里縁」

二胡奏者 魏 麗玲さん

キーボード 中島 陽子さん

・自分の生い立ち、台湾の歴史、日本・台湾の地震被害地へ寄付をしている話などを交えて優美な二胡の調べを奏でられました。

人権フェスティバル(12月)

昨年の12月6日（日）にメイシアターで「2009人権フェスティバル」が開催され、気象予報士の正木明さんの講演がありました。国連気候変動枠組条約の締約国会議（COP15）でも話題となりました、沈みゆく島国「ツバル」の現状から、地球環境を守ることの大切さを話されました。

また、難病を乗り越えられたエスペランサのお二人の演奏がありました。柔らかなトークと素晴らしい音色が心にしみしました。



エスペランサ



まさき あきら
正木 明さん

あなたも人権啓発推進委員になりませんか！

吹田市人権啓発推進協議会は、平成8年1月に発足し、今年、15周年を迎えます。現在1500人を超える人権啓発推進委員を中心に、人権啓発を目的とした様々な行事を各地区で行なっています。年齢、性別を問いませんので、あなたも人権啓発推進委員になって、一緒に活動しませんか。下記の人権協事務局までお問い合わせください。

発行／吹田市人権啓発推進協議会

事務局：吹田市 自治人権部 人権平和室 内 〒564-8550 吹田市泉町1-3-40

電話 06-6384-1539 FAX 06-6368-7345 E-mail jin_kent@city.suita.osaka.jp



じんけんネット吹田

No. 28

平成22年(2010年)4月

100人の村あなたもここに生きています

—2010— 憲法と市民の つどい



講師 作家・翻訳家

いけだ かよこ

池田 香代子 さん

日時 5/29(土) 13:30～16:00

場所 メイシアター 中ホール

入場無料 手話通訳あり

人権協では、市民一人ひとりの人権意識の高揚を図り、共に生きることでできる社会をめざし、毎年5月に「憲法と市民のつどい」を実施しています。今年は、『世界がもし100人の村だったら』の著書でお馴染みの池田香代子さんをお迎えして、今地球上で生起している様々な人権課題を「100人の村」規模に置き換えて、分かりやすくお話していただきます。

また、コンサートは、ンコシアフリカ（トモミ&ジョセフ）さんをお招きして、南アフリカマリンバ（木琴）アンサンブルの演奏とお話をさせていただきます。

皆さんのご参加をお待ちしています。

音楽 ンコシアフリカ



トモミ



ジョセフ・ンコシ

平和へのメッセージ・吹田のまちから発信！

～吹田市制70周年記念・語り部DVD～

市制施行70周年記念事業の一環として、「平和の語り部DVD」を作成しました。

この「平和の語り部DVD」は、平成22年（2010年）が戦後65周年であると同時に、吹田市が市制施行70周年という節目の年を迎え、戦争体験者の高齢化が進む中、悲惨な戦争の記憶を風化させないように、また、今日のわが国が、尊い戦争の犠牲者や、戦争の苦難に耐えてきた方々の礎の上にあることを忘れてしまわないよう、市内にお住まいの5人の戦争体験者が、「平和の語り部」として自らの戦争体験を語る姿を映像に収め、戦争の悲惨さと平和の尊さを次の世代に語り継いでいくことを目的に作成しました。

平成22年度には、市立小中学校等への配付や市民の皆様への貸し出しを開始し、DVDを活用したいと考えています。また、講演会も予定しています。（詳しくは市報すいたでお知らせします）

吹田がもし100人の村だったら・・・

「憲法と市民のつどい」の講師・池田香代子さんの、著書「世界がもし100人の村だったら」（池田香代子・再話 C. ダグラス・ラミス・対訳 マガジンハウス刊）を吹田に置き換えると・・・

現在、世界には63億人の人がいますが、もしもそれを100人の村に縮めると

- ★52人が女性です。48人が男性です。
- ★30人が子どもで70人が大人です。そのうち7人がお年寄りです。

吹田が100人の村だったら

やっぱり**52人が女性で、48人が男性**です。

でも、**子どもは15人で 大人が85人、お年寄りは、そのうち19人にもなります。**

世界が100人の村だったら

1年の間に、村では1人がなくなります。でも、1年に2人の赤ちゃんが生まれるので来年は、村人は101人になります。

吹田が100人の村だったら、**0.7人がなくなり、生まれるのは、0.9人**です。

世界が100人の村だったら

61人がアジア人です。13人がアフリカ人、13人が南北アメリカ人、12人がヨーロッパ人、あとは南太平洋地域の人です。

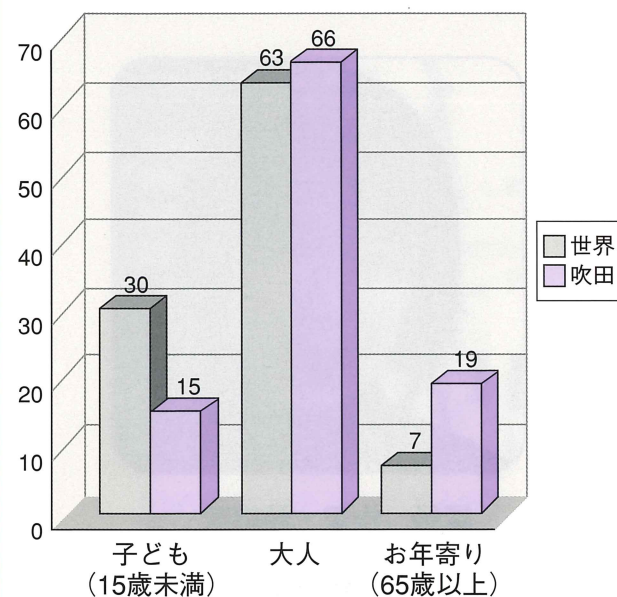
吹田が100人の村だったら、**外国籍の方は、1.2人になります。0.6人が韓国・朝鮮籍の方、0.4人が中国籍の方です。残りは、米国、フィリピン、タイ、インドと続きます。**

あなたの感じと同じでしたか、大きく違っていましたか

●吹田の数字●

人口 352,626人 (平成20年9月末現在)	女性 182,034人 (51.6%)	男性 170,592人 (48.4%)
	15歳未満 51,273人 (14.5%)	15歳以上 297,042人 (84.2%)
	内 65歳以上 64,647人 (18.3%)	
	出生 3,172人 (0.9%)	死亡 2,388人 (0.7%) (平成20年1月～12月)
外国人登録人口 (平成21年3月末現在)	4,353人 (1.2%)	韓国・朝鮮籍 2,212人 (0.6%) 中国籍 1,301人 (0.4%)
	仕事をしている人 163,946人 (46.4%)	(平成17(2005)年国勢調査)
	第一次産業従事者 274人	第二次産業従事者 30,416人 第三次産業従事者 128,776人

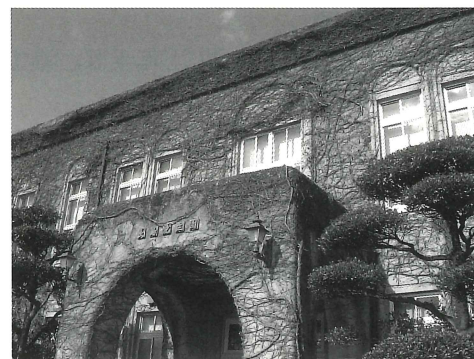
吹田の現状 少子高齢化が歴然！



長島愛生園を訪ねて

平成21(2009)年11月10日(火)に代表研修会を行いました。平成20(2008)年には、鎌倉時代のハンセン病患者等の福祉救済施設「北山十八間戸」(奈良市)を見学しました。そのつながりで今年度は岡山県瀬戸内市「長島愛生園」を訪ねました。様々な展示物や施設を見学するとともに、隔離生活を余儀なくされた当時の様子やその後の人間性回復運動の取り組みなどのお話を担当者からお聞きし、偏見につながる無知の問題など、人権について改めて学習することができました。

以下、参加者のご感想やご意見の一部を紹介します。



長島愛生園・歴史館

ハンセン病は感染力の非常に弱い感染症であり、日本では年に感染者は6・7人、発病者は1・2人である。それも特效薬があり完治する、即ち患者は限りなく0に近い。主症状は知覚・神経麻痺、我々が目にするのはその二次障がいや後遺症である。愛生園には、回復した今も、故郷に帰れない状況に置かれた400人近い回復者がおられ、その平均年齢は80歳、園内の納骨堂には3500余柱の引き取られない遺骨が納められている。隔離政策は1907年から1996年まで続いた。問題解決のための基本法はやっと去年施行された等々。

こんな基礎的な明快なことが曖昧にしか認識できていなかったことを恥じながら、園内を巡る。
(吹二地区委員会 久野 利夫)

目の前に牡蠣いかだが静かに列をなす瀬戸の海が広がり、ふるさとの記憶がよみがえった。

海岸に張り付いたある東北の漁村の光景だった。小学校の登下校に全員が息を止め、薄目で小走りに走り抜ける場所があった。その場所は息を止めても、さほど苦にならないほどの小さな間口の古い木造の家だった。薄目で見ると汚れた曇りガラスの奥はいつも薄暗く人気がなかった。どんな人が住んでいるのか、結局わからなかった。いつの頃か、その建物は、跡形もなく消えていた。

そしてこの度、長島愛生園を訪ね、真実を知る機会を得た。もしかして、あの人もここで一生を終えたのだろうか。あまりにも似過ぎる遠い異国の島の景色が、かえって望郷の念を駆り立てたのでは……。誤った情報・知識が一家一族を追いやった。そして、心に追い打ちをかけたのは私たちの小走りする姿ではなかったのか。
(山一地区委員会 山本 貞明)



担当者の説明



入所者が最初に入れられた消毒槽

岡山県邑久町虫明に、1930年開園したハンセン病の療養施設があります。その存在は知っていましたが、物心ついてからこの方無関心に過ごしていました。今回研修会に参加して衝撃を受け、無関心の怖さを痛感いたしました。らい菌は感染力の弱いものであることや、1943年に特效薬プロミンの治療効果が発表されたにもかかわらず、「らい予防法」が制定され、1996年の同法廃止・厚生大臣の謝罪まで60余年もの長い間人権侵害が続きました。この様子は歴史館や他の保存されている建物に今も生々しく残り、今回参加された31名の方々の心に重くのしかかりました。全国15箇所の療養所で生活の方々は完治されていますが、後遺症と高齢による方々です。私たちは、ハンセン病は完治することを伝え、偏見をなくし、辛い思いのまま亡くなっていかれた多くの方たちを忘れてはいけないと思います。
(吹一地区委員会 西尾 洋子)